

令和元年度 第1回大口町地域包括ケアシステム推進協議会 議事録

令和元年7月30日(火)

健康文化センター1階 機能回復訓練室

議事録

発言者	発言内容 (開会 午後1時30分)
部長	あいさつ 先月認知症対策における予防に繋がる新大綱が閣僚会議で決定されました。2017年度4.9%だった65歳以上の通いの場への参加率を、2025年度8%に向上させることを目標にしています。地域ぐるみで取り組んでいくことがますます重要になります。
課長	委嘱状の交付(机上)と自己紹介。 委嘱期間については前任者の残任期間となり、令和2年7月31日までの1年となります。
課長補佐	議題1「地域包括ケアシステムの構築に向けたとりくみの説明」 (資料1、2、3)
	質疑応答特になし。
委員長	議題2「今後に向けての意見交換」 今後に向けて、それぞれの立場から皆様のご意見やご感想など、お聞かせいただきたいと思います。
地域協働課長	机上に「これからの地域づくり講演会」のチラシを配布してあります。 7月27日(土)に開催予定でしたが、台風6号の影響により中止となり、8月24日(土)に延期となりましたので紹介します。 「これまでの大口町地域づくり」については地域づくりの取り組みを、地域自治組織単位において、地域協働課、健康生きがい課、社会福祉協議会、まちねっとが協力しながら進めています。また、まちづくり座談会の取り組みで、地域包括ケアの生活支援体制の整備として、平成30年度7回開催、おばトークを2回開催、3月にはまとめの講演会を開催しました。講演会ではこれまでの取り組みの紹介をかねて、岩崎先生に地域に期待されることを地域共生社会や、地域づくりを演題にお話していただく予定です。 地域自治組織の大きな課題は高齢化です。今年は、認知症予防として徘徊搜索模擬訓練を2カ所以上で開催できたらと考えています。また、認知症について理解を深める講演会等の開催も検討中です。
委員長	おばトークにおいて女性の活躍があるが、取り組みは大きくなってきていますか？

地域協働課長	残念ながら参加者が少なく、大きな取り組みまでにはいたっていません。具体的ではないのですが、生活コーディネーターと協力して進め、社協のサロンのノウハウを提供していただきながら今年度進めていけたらよいと思っています。
大口町社会福祉協議会 局長	居場所づくりを目的に5年ほど各地にサロンをつくるお手伝いをしています。現在では16カ所サロンがあり、地域に限ったサロンやテーマ別「子育て」や「認知症」に特化したサロン等もあります。また、サロンを立ち上げて活動できない場合は出前サロンも行っています。2年間計画で進め、6月に新しくサロンが1つできたところです。他にも2カ所相談を受けており、今年度中に立ち上がるように進めています。高齢者の「足の問題」の相談が多くあります。また、暮らしのおたすけ隊として買い物サービスも行っています。その他に「運転ボランティア」講座を、認知症カフェ、サロンなど4カ所で行っています。参加については、車両保険以外は同意書をもって開催しています。防災の講座の要望もあります。530運動後に講座を4カ所お願いされています。社協に登録されている災害救援ボランティアにハード面を、社協にソフト面を実践に繋がる講座を行っています。以上のような様々な地域課題と生活課題をとらえて社協の事業に取り込んでいます。もう一点、高齢者世帯の増加により男性の料理問題があります。年4回季節に応じた簡単料理教室を、健康生きがい課の管理栄養士を講師に開催しています。春の回はすでに開催し、第2回目は8月29日（木）に夏の回を開催予定です。
委員長	運転免許証返納者は増えましたか？
大口町社会福祉協議会 局長	テレビで高齢者の事故ニュースが増えたために、家族に言われて返納する方が多くいます。詳しい数字まではわかりません。
委員長	運転免許証を返納したためにサロン利用者が増えましたか？
大口町社会福祉協議会 局長	もともとサロン利用者であったために、サロン利用者の増減について変化はないが、返納したために車がつかえなくて困ったというケースは増えています。
地域包括支援センター 管理者	平成30年度の反省をふまえて、まだまだ不十分だと感じています。困難ケースが多いが地域課題として、今後取り組んでいこうと思います。また、認知症に関わるケースが多く、初期集中支援チームとしてサービスに繋げて、人を結びつけるという場にもっていったらよいと思います。

大口町介護支援専門員連絡会代表	<p>家族が介護している担当になることが多く、だんだん介護度が重篤化しているケースが多いです。介護3～5の方が年々増加しているように感じます。介護3以上は特養に入れますが、在宅の方が多い現状です。家族介護において配偶者等の介護者負担が大きく、外出できない等の相談があります。家族介護者も元気に外へ出やすい環境をつくる必要があります。</p> <p>また、病院へ薬を取りに行くために運転免許証を返納できない場合などもあります。車を運転して、車にキズを増やしています。自主返納できない方をどうやって説得していくのかが課題です。</p>
町内介護事業所代表	<p>デイサービスや、ボランティアに参加してくれる方の中でも高齢化が進んでいます。運転免許証を返納したために足がない方に対して何か対策する等、ボランティアに対しても目を向ける必要があります。</p> <p>認知症高齢者においては安全確保が難しいです。認知症高齢者は時間の感覚が鈍くなり、暑い寒い中でも1時間前から待つことがあります。</p> <p>また、徘徊される方は出かけるスイッチが入ると、デイサービスだけでは守ることが難しいです。サービス提供だけではまわらない現状です。</p>
地域医療連携室代表	<p>脳梗塞手術後でも車の運転をするようなケースがあります。</p> <p>また、家に戻りたい意思はあるが独居の為に戻ることができず、施設を紹介するケースが多くあります。</p> <p>最近の事例では、倒れて病院に救急車で運ばれてきたが、身元がわからずに、地域包括支援センターに問い合わせるがありました。幸い財布の中に住所が分かるものがあったために身元がわかりましたが、最近突然暑くなったために、同様なケースが増えてくると思います。</p>
住民団体代表	<p>机上にまちづくり情報誌「おおぐちモード」を配布してあります。</p> <p>地域やNPO団体の交流から他団体との繋がりを持っています。地域の課題を地域の資源で解決するために、福祉的な資源を探すためにも、まちねっとを多く活用してほしいです。</p> <p>また、今年は65歳の同窓会を開催予定です。生きがいを地域に求めて具体的な活動を考えるきっかけになったらと思います。</p> <p>西小学校区に外国籍の子どもが増え、子ども向けの学習支援も実施しています。</p>
町内高齢者施設代表 施設長	<p>人材不足の課題があります。施設に8事業あり、人数が減っていくとサービスの低下に繋がります。介護の魅力を発信するアイデアがほしいです。</p>
江南保健所 課長	<p>栄養士会と協力して、食形態マップを作成しました。共通のコードで評価してマップという形で一覧にしてあります。</p>

尾北歯科医師会代表	特別にはしていません。
地域自治組織	南自治組織は子どもを中心に、中自治組織は外国文化を、北自治組織はアンケートから課題を出して、5カ年計画で進めています。しかし、個人情報の問題があり、つまづいています。今年は地域包括ケアシステムに重点をおいています。 徘徊搜索模擬訓練は毎年行う必要があり、年々充実してきていると感じています。
尾北医師会	平成31年3月に暮らし方を考える講演会を参加者100名程度で開催しました。今年は在宅の講座を増やす予定です。
副委員長	7月14日（日）に高齢者や介護というキーワードに捕らわれないシンポジウムを開催しました。 徘徊搜索模擬訓練もロールプレイング風に行えば、町民も楽しく取り組むことができるのではないかと考えます。 参加されない方にどうアプローチするかがポイントであり、若い世代をどう巻き込むかが課題です。
識見を有するもの	春日井市において、まちづくりの市民代表の委員として参加しています。また、NHK 地域福祉セミナーにも参加しており、現在は名古屋市の精神保健福祉相談員として働いています。孤立する人を減らし、地域の問題解決を地域の資源でどうしていくかが課題であると考えます。
国立長寿医療研究センター	目的の情報共有を行いブラッシュアップする必要があります。地域ケア会議において個別ケースの対策に繋がっていないと感じます。困難ケースを面的にして、意識してビジョンと現状をどうしていくのかを考える必要があります。 また、他委員の意見を聞いて、在宅住民、高齢者の運転、熱中症については支援を急ぐ必要があり、町はマネジメントが急務であると感じます。どんなサービスを利用し、フィードバックしていくのか、生活をどう立て直すのかを、本人に想像させて組み立てることが重要です。
課長	その他 特になし
閉会	(閉会 午後2時53分)